

第4班

『海外神社跡地のその後』 共同研究

(1) 共同研究員名

研究代表者：中島三千男

共同研究員：津田良樹 小熊誠 後田多敦 前田孝和 菅浩二

研究協力者：稲宮康人 金子展也 辻子実 渡邊奈津子 本田佳奈 水町史郎 金山浩

(2) 研究目的

我々が先鞭をつけた、海外神社の跡地研究は台湾で盛んに行われるようになり、韓国においても研究が始まりつつある。今後、中国においても研究が始まることが予想され、その意味でこれからは海外神社跡地研究の本格的スタートになる。我々の今期の共同研究は、海外神社跡地の景観変容について戦後の国家体制及び日本との関係を中心に検討することを目的とする。地域的にはまだ我々にとって研究の空白になっている、東南アジア（ベトナム、フィリピン、インドネシア）及び北朝鮮地域（国幣社2社を含む25社、神祠が335社存在していた）を主な対象とする。

(3) 活動経過（目的達成のための方法、各年度の研究・調査経過、成果の公開状況等）

1 班内研究会

① 2014年6月14日 参加者35名

調査報告

台湾 津田良樹、台湾 金子展也、中国南部 渡邊奈津子、中国北部 稲宮康人、韓国濟州島 諸葛衍、旧南洋群島 稲宮康人

② 2015年3月8日 参加者37名

北朝鮮調査報告

「旧朝鮮北部（現・朝鮮民主主義人民共和国）の神社跡地を訪ねて」中島三千男、前田孝和、津田良樹、菅浩二、坂井久能、稲宮康人

「朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）、8日間の見聞記」中島三千男

③ 2015年11月28日 参加者21名

第1部 論文評 坂井久能

菅浩二「海外神社論——大日本帝国と秩序意識の編成」（『岩波講座 日本歴史』第20巻、2014年10月）

第2部——国内調査報告

津田良樹

・阿智村「満蒙開拓平和記念館」、石川県立図書館「小倉文庫海外神社資料」、柏崎市中山博迪家所蔵「奉天神社造営図面」

渡辺奈津子

「居留地時代の福州神社——西宮在住・佐藤明雄氏からの聞き取り」

第3部——海外調査報告

稲宮康人

・中国（旧満州内蒙古地域）吉林神社、四平街神社、延吉神社、大石橋神社、錦州神社、遼陽神社、文官屯神社、蒙疆神社、承德神社

・韓国 九龍浦神社、鎮海神社、馬山神社、松汀神社

・テニアン NKK 神社

中島三千男

「台湾南部屏東県クスクス社「再興」をめぐって——宮古島民殺害事件、台湾出兵、NHK スペシャル・日英博覧会「人間動物園」訴訟と神社の再興——」

④ 2016年12月17日 参加者60名

稲宮康人「フィリピンの神社跡地」調査報告

津田良樹「旧満州開拓団神社跡地」調査報告

エドワール・レリソン「私の研究課題——満蒙開拓と宗教——」

後田多敦「来季からの共同研究について——琉球・沖縄の神社——」

2 非文字資料研究センター公開研究会

① 2014年11月22日 参加者80名

テーマ「旧樺太（現ロシア連邦サハリン州）における神社の創建と跡地の現況」

前田孝和「旧樺太における神社の創建について」

A. サマリン「旧樺太における神社跡地の現況について」

② 2016年2月27日 参加者90名

テーマ「台湾でなぜ神社の復興が見られるのか？ 中国・南京神社の社殿はなぜ壊されなかったのか？」

武知正晃（台湾首府大学）「台湾における日本時代の建築物を見る眼差し——近年なぜ神社の復興が目立つのか」

李百浩（中国・東南大学建築学院）「日本の敗戦後における旧南京神社の歩み——なぜ南京で社殿が壊されなかったのか」

コメンテーター 蔡錦堂（国立台湾師範大学） 上水流久彦（県立広島大学）

③ 2017年2月25日 参加者60名

テーマ「植民地期、台湾の社・祠 vs. 朝鮮の神祠・神明神祠」

報告

蔡錦堂「植民地期台湾の社・祠について」

青野正明「植民地朝鮮における神祠、無願神祠、在来の村祭り——村落レベルの〈神社〉とは」
補足報告

金子展也「写真で見る台湾の社・祠」

3 海外共同調査

- ① 北朝鮮、2014年9月8日～16日 中島三千男、前田孝和、津田良樹、坂井久能、菅浩二、稲宮康人
- ② フィリピン、2016年2月10日～17日 小熊誠、中島三千男、稲宮康人
- ③ インドネシア、2017年3月5日～13日 中島三千男、津田良樹、稲宮康人

4 個別調査

- ① 香港 2015年1月25日～2月1日 辻子実
- ② 吉林省、黒竜江省の神社 2015年1月28日～2月7日 稲宮康人
- ③ 韓国の神社 2015年3月25日～4月1日 稲宮康人
- ④ シンガポール・昭南神社調査 2015年7月16日～20日 稲宮康人
- ⑤ 台湾南部の神社 2015年7月18日～22日 金子展也、中島三千男
- ⑥ 阿智村「満蒙開拓平和記念館」2015年8月1日 津田良樹、稲宮康人
- ⑦ 新潟 2015年9月7日～8日 津田良樹
- ⑧ 華北の神社 2015年9月18日～27日 稲宮康人
- ⑨ サイパン・テニアン神社 2015年10月8日～12日 稲宮康人
- ⑩ 台湾・クスクス社調査 2015年12月12日～15日 中島三千男
- ⑪ 華南の神社 2015年12月26日～2016年1月2日 稲宮康人
- ⑫ フィリピン・神明神社（バギオ）聞き取り（古屋英之助氏）2016年2月2日 小熊誠
- ⑬ ホノルルの神社 2016年3月16日～22日 前田孝明
- ⑭ 台湾東部の神社 2016年3月17日～23日 稲宮康人
- ⑮ 朝鮮・鎮南浦神社聞き取り（眞子和治氏）2016年4月28日 中島三千男
- ⑯ 朝鮮・鎮南浦神社聞き取り（矢田部俊夫）2016年6月1日 中島三千男
- ⑰ 中国、中・南部の神社 2016年7月3日～11日 中島三千男
- ⑱ 開拓団神社 2016年9月10日～19日 稲宮康人、中島三千男、津田良樹、前田孝和
- ⑲ 韓国南部の神社（群山、江景、公州、扶余等）2016年10月27日 辻子実
- ⑳ フィリピン・神明神社（バギオ）聞き取り（古屋英之助氏）2016年11月10日 稲宮康人、中島三千男
- ㉑ 台湾、桃園神社、振洋八幡社、クスクス祠等 2017年2月18日～23日 金子展也、前田孝和、坂井久能

5 国際シンポジウムへの参加

- ① 非文字資料研究センター・日本常民文化研究所・台湾大学文学院歴史学部

国際シンポジウム「帝国日本と台湾の眼差し——非文字資料の利用」

2015年12月11日 於台湾大学文学院

報告：金子展也「メガ産業と企業神社——台湾における神社創立を全体として捉えるために」

コメンテーター：中島三千男

② 非文字資料研究センター・浙江工商大学東亜研究院

国際シンポジウム「東アジアにおける非文字資料研究」

2016年7月2日～3日 浙江工商大学東亜研究院

報告：稲宮康人「中国の神社跡地について」

コメンテーター：中島三千男

6 神奈川大学エクステンション講座の担当を決めた

研究成果の一般社会への還元を目的として行われている、エクステンション講座（2017年度）

に以下の如く、「海を渡った神社とその後」というテーマで参加することになった。

- ① 6月3日 海を渡った神社と現在 中島三千男
- ② 6月10日 日本国による琉球祭祀の再編——海外神社の先駆け 後田多敦
- ③ 6月17日 台湾；夥しい神社遺跡が残る謎について 金子展也
神社遺跡は何を語るか——台湾を中心に 津田良樹
- ④ 6月24日 神社遺物を見つけること——朝鮮半島を中心に 辻子実
朝鮮（北朝鮮）の神社跡地を訪ねて 中島三千男
- ⑤ 7月1日 樺太・「北方領土」、ハワイの神社のありよう 前田孝和
- ⑥ 7月8日 旧満州国の神社と開拓団神社から見えてくるもの 津田良樹
- ⑦ 7月15日 近代宗教史の中の海外神社——祭神から考える「日本」の拡がり 菅浩二

(4) 研究成果（成果物、獲得された知見、収集資料の解題等）

1 『ニューズレター』

- ① 32号（2014年7月）
「公開展示・公開研究会〈海外神社とは？——史料と写真が語るもの〉」 津田良樹
「台湾における管内神社等の調査」 坂井久能
- ② 33号（2015年1月）
「日本統治時代の台湾に於ける酒専売と構内神社」 金子展也
「韓国済州島の海外神社跡地調査報告」 渡邊奈津子
「海外神社調査報告、北京神社・青島神社・済南神社・烟台神社・天津神社」 稲宮康人
- ③ 34号（2015年9月）
「侵略神社・香港」 辻子実
「ホノルル神社跡地の景観変容について」 前田孝和
「中国・韓国の神社跡地報告」 稲宮康人

④ 36号(2016年9月)

「2015年度非文字資料研究センター第2回公開研究会報告——台湾でなぜ神社の復興がみられるのか? 中国・南京神社の社殿はなぜ壊されなかったのか? ——」 中島三千男

「中国・台湾・シンガポールの神社跡地報告」 稲宮康人

⑤ 37号(2017年1月)

「満州における〈神道〉——代表的な人物を例として」 エドワール・レリソン

2 『年報 非文字資料研究』

① 11号(2015年3月)

「旧樺太の神社について——併せて北方領土の神社について」 前田孝和

「サハリンにおける〈カラフト〉期の日本文化・歴史遺産を保存し利用するという視点からの神社遺構の現況について」 I. A. SAMARIN

「旧朝鮮北部(現:朝鮮民主主義人民共和国)の神社跡地を訪ねて」 中島三千男、津田良樹、前田孝和、稲宮康人、菅浩二、坂井久能

② 12号(2016年3月)

「植民地期、旧朝鮮全羅南道済州島(現・大韓民国済州特別自治道)に建てられた13の神祠とその跡地について」 諸葛衍、金泰順、渡邊奈津子、中島三千男

③ 13号(2016年9月)

「台湾における日本時代の建築物を見る眼差し——近年なぜ神社の復興が目立つのか」 武知正晃

「日本の敗戦後における旧南京神社の歩み——なぜ南京で社殿が壊されなかったのか」 李百浩
松本康隆

「中国・台湾の神社研究へのコメント」 上水流久彦

「コメント及び戦後台湾における神社処分について」 蔡錦堂

「中国福建・広東省海外神社跡地について——汕頭、厦門、福州神社跡地調査補遺」 渡邊奈津子

3 著書

津田良樹・渡邊奈津子(編集・執筆)『海外神社とは? ——史料と写真が語るもの』(2015年3月、非文字資料研究センター)

金子展也『台湾旧神社故地への旅案内——台湾を護った神々』(神社新報社、2015年9月)

4 データベースの構築

我々の研究が世界的に注目される中で、データベースの多言語化の要望が多々寄せられており、これに応えるための手始めとして、今年度はタイトルの英語、韓国語、中国語化を行なった。

(5) 今後の課題と展望(自己点検・評価)

① メンバー個人のまた共同の精力的な調査、その成果のニューズレターや年報への反映、また年1

回の海外の研究者も招いてのセンターの公開研究会、さらには年1~2回の班内の公開研究会を多数の参加者のもとに成功させるなど、他の班に劣らない活動をすることができた。

- ② 上記のことと並んで、データベースの充実・公開は海外神社（跡地）研究の重要性を国内外に知らしめ、台湾はもとより韓国、中国でも研究が始まった。
- ③ COE時代から始まった海外神社跡地調査は、本年度（2016年度）のインドネシア調査で大日本帝国の「勢力圏」内に建てられた海外神社（狭義の海外神社）の跡地調査としては地域的にはほぼ完了する。
- ④ こうした跡地調査により、未だ仮説段階であるが、神社跡地の景観変容の様を「改変」、「放置」、「再建」、「復活」の4つに分類することができること、またそうした景観変容の要因、背景として「政治的要因」、「社会の変容」、「経済発展の度合い」、「文化伝統」、「支配交替の刻印」の5つを析出すると共に、その5つに要因が複雑に重なり合い、また消しあって今日の神社跡地の景観が出来上がっている事を明らかにした（中島三千男『海外神社跡地の景観変容——さまざまな現在』（神奈川大学評論ブックレット、2013年4月、御茶の水書房）。
- ⑤ 今後の課題としては、海外神社の前史ともいべき琉球（沖縄）及び蝦夷（北海道）の神社設立を見ていく。とりあえずは琉球（沖縄）に焦点を当てる。この地域の神社は狭義の海外神社とは異なり、現在も生きている、機能している神社であるが、琉球（沖縄）における祭祀の大日本帝国による再編過程を見ることにより、それらが海外神社の前史と言われることの内実を明らかにする。また、琉球（沖縄）は近代以降、多くの海外移住者を輩出するが、彼らの移住先での神社の設立を見ることにより、大日本帝国の政治的支配が及んでいない地域、ハワイ、アメリカ西海岸、ブラジルなどの海外神社（広義の海外神社）及びその跡地への研究対象の拡大へのステップとする。
- ⑥ このように、これからしばらくは琉球（沖縄）を対象をすえた研究活動を開始するが、如上のようにあくまでも海外神社（跡地）研究の一環であることに鑑み、これまで進めてきた狭義の海外神社及び跡地の研究も個別的、補充的に継続していく。

その一環としてこれまでの研究で蓄積してきた海外神社跡地のデータベースを新たに構築する。また、COE以来の共同研究による現地調査の報告をまとめて刊行することも検討する。